

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201072		
法人名	医療法人恩幸会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒036-8124 青森県弘前市石川字大仏下53		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年11月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は静かな環境にあり、周辺には同法人の医療機関、訪問看護ステーション、協力体制のある歯科医院が点在している。日常的な健康管理や急変時の協力体制が図られており、利用者・家族にとっても、また職員にとっても安心して生活ができる環境となっている。また、ホーム前の畑にあるブドウを町内の方が手入れをしてくれたり、地域の交流にも努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は事業所の雰囲気、利用者の人権を大切にシケアの質を高めるため、現在の事業所の実情に合わせた理念になるよう職員とともに内容の変更に取り組んでいる。また、入居前からの暮らしの継続としてそれぞれの暮らしぶり、生活リズムの再現に少しずつ取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・各ユニットに掲示。朝の申し送り時に職員間で理念の確認を行い業務に就いている。	理念は玄関と事務所に掲示されており毎朝の朝礼でその日勤務する職員間で理念を確認し、業務を行っている。また、現状に即した理念の変更を職員全員で検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や児童館との交流。施設行事への招待。※現在は休止中	以前は地域の盆踊りに出向いたり、事業所では夏祭りを開催し、地域の方に来ていただいていた。その他、日常ではボランティアの昔話や児童館の子供達の訪問を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の地域行事の受け入れ。 ※現在は休止中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。ご家族の参加は少数ではあるが、全体的にはまだ参加がなく意見が少ない。※現在は休止中	新型コロナウイルス感染予防からここ数年は開催していなかったが、最近になり参加を募っているものの家族の参加がないため行われていない状況である。	運営推進会議は事業所の実情を伝え助言をいただいたり、取り組みを地域に発信する位置付けであるため開催が困難な場合は書面等、代替の手段を検討し、情報発信や関係機関から助言をいただく等の情報交換が積極的に行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の疑問点等があれば問い合わせをし、確認している。出来るだけ市役所へ行くようにしている。	制度上等の問い合わせの他、空室がある場合等行政や地域包括支援センターに連絡したり、情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員が身体拘束をしないケアを意識している。	身体拘束防止マニュアルを作成し、これらの情報はパソコン上で管理されている。転倒リスクの高い方であっても歩行時の行動抑制はせず、すぐに気付ける工夫と付き添うようにし、身体拘束にならないよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員同士声を掛け合い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があれば対応できる体制作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際に説明している。入退居・緊急時の対応・損害賠償など不安要素を聞き出し、納得していただいた上で、同意を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の定期的開催。玄関・居室へ意見ノートの設置。意見ノートは設置している。	利用者からは日々の暮らしの中での会話等から聞きだし、家族からは面会時と電話連絡をした際に確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を行い、管理者が意見をまとめ代表者等へ報告・相談している。	会議や業務中など問わず、各職員から管理者に随時報告し、相談されており、実際に福祉用具や電化製品を購入する等、運営や環境の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの個人面談等に依り報告された内容について検討し条項の整備向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの地域ケア会議への参加。グループホーム協会への加入はあるが、同業者等との相互訪問等の活動は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が積極的にコミュニケーションをとり、かかわりを持つことで信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで状態の報告や、対話の時間を作り、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動を共に過ごすことにより本人から学んだりしお互いに支えあう関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護側からの考えだけでなく、ご本人と家族の絆や感覚、考え方を柔軟に取り入れ、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力し面会や外出など、出来る限り関係の維持に努めている。※現在は休止中	入居前に培った人間関係はセンター方式を活用しアセスメントしている。新型コロナウイルスの影響で面会や外出は中止していたが、現在は再開され希望があれば随時、自宅や馴染みの場所へ外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように環境の工夫や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の要望に沿って相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを確認し、コミュニケーションの時間を多く持ち、希望、意向の把握に努めている。	利用者からは主にセンター方式と日々の会話から思いや意向を汲み取り、得た情報は申し送りノートを活用し職員間で情報共有している。思いを表現することが難しい方については、家族から面会や通院付き添い時の合間を利用して確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との関りを積極的持つことにより現状の把握、職員間の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を収集し、利用者本位の介護計画作りに努めている。	モニタリングは介護計画書更新時と随時行っている。状態変化がみられた場合は、管理者と介護職員で行い、家族からの希望等は面会や通院付き添い時の合間を利用して確認し、状態に即した計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの利用、細かなミーティングを行い情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の医療機関、訪問看護ステーション、近隣の協力歯科医院があり、入院、訪問診療等の協力体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	働きがけはしているが、支援まで結びついていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医療機関と協力体制がとれ、夜間の往診も可能となっている。専門医の受診等は入居前からのかかりつけ医を継続して通院している。通院に何してはご家族に協力してもらっている。	事業所で通院を支援し、他科受診等専門医への通院が必要な場合は入居前のそれぞれのかかりつけ医へ家族からの協力を得ながら行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医療機関の看護師や訪問看護師との連携。週1回の訪問診療、週1回の訪問看護ステーションの健康管理。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医療機関との連携。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人の医療機関があり、重度化した場合への対応に係る指針を作成し、入居時から利用者、家族、医師と話し合いを持っている。	入居時に状態悪化時や終末期となった場合の事業所として対応できる医療体制について説明している。状態悪化時や終末期には家族、医療機関、訪問看護、事業所の間でカンファレンスが行われ、訪問看護による医療的ケアや介護医療院との連携が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し同法人の医療機関との連携をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の定期的実施と近隣住民との協力体制を確保している。	同法人の医療機関や近隣の家族と年2回の避難訓練を行っている。また、同法人事業所と共同で発電機、ストーブ、水、食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々に配慮した対応を心掛け、個人情報取り扱いに注意している。	管理者が参加した外部研修で人権やプライバシーに関する重要な内容は勉強会のような形で各職員へ重要性を周知している。また、管理者自身も日常のケアに関わり、そこで気づいたことはその時点で話すか、状況によっては話し合いの場を設け、意識を変える声掛けの仕方等を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員へ話し掛けやすい関係の構築に努め、自己決定しやすい様に選択肢の提示をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそった、利用者のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で自由に選択できるように支援している。意思に配慮しながら、身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が入居以前から使用していた食器を使用している。状態に合わせて使いやすい食器への変更。	入居後に食欲をなくさないよう、それまで使用していた食器を持参していただくよう家族へ積極的にアプローチしている。利用者が食べたい物や食事の希望については随時、聞くようにしている。その他、片付けは利用者も手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥やキザミ、ミキサー食など食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	能力や習慣に応じ支援を行っている。状態に合わせて、日中だけでもトイレでの排泄が出来るよう支援している。	それぞれの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄できるよう努めている。特に一部のトイレには利用者個々の日常生活動作に合わせた手すりを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の管理工夫。同法人の医療機関と連携し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日以外でも希望や状況に応じて対応している。	週2回以上入浴している。それぞれのペース、好みの入浴時間、洗髪希望や状況に合わせて行うため一日少人数での入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の説明書の利用と、同法人の医療機関より指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた作業、レクリエーション等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の希望に沿って、出来るだけ支援している。	入居前の暮らしの継続として希望を聞いて外出している。自宅や馴染みの店、リンゴ畑に出かけている。また、希望を伝えることが難しい方はアセスメントを基に通院時に自宅周辺やそれまでの馴染みの場所に立ち寄りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望に沿って支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてどちらも対応している。また家族・知人からの取次も自由にできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明により明るさの調整、エアコンによる温度調整等により居心地の良い空間作りに努めている。	事業所内のいたる場所に天窓があり適度に自然な光が差し込んでいる。リビングは食事席とキッチンが対面していることで食事の香りを感じることができ、スペースは広くそれぞれがくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりや談話コーナー等を利用して居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた寝具や配置を工夫している。	入居後に安心して暮らしていただくために入居前に馴染み深いものを持ってきていただくよう家族にお願いしている。特に寝具は全ての利用者が自宅から持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、家具や寝具の配置等を工夫している。		